

TEMPLON



THE KID

POPEYE MAGAZINE, décembre 2016

ARTIST TO WATCH



The Kid

from France

アーティスト名そのまま、少年の面影を残したあどけない笑顔。ザ・キッドは初見の印象からは想像できないほど骨太なアーティストだ。ペインティング、ドローイング、スカルプチャー、様々な手法で作品を発表するが、モチーフは“若者”と一貫している。彼自身、決まり事だらけの学校に嫌気がさして、故郷のオランダを離れ、10代半ばにして海外へ。モデル業やファッション関係の仕事をごなしながら、アメリカでアートへと道を定める。それは自由の象徴、アメリカンドリームとは対極の、恵まれない家庭環境で育ち、若くして罪を犯してしまった少年たちとの出会いがきっかけ。生まれた環境で人生の可能性が制限されてしまう“社会決定論”への疑問が、彼の創造意欲を掻き立てたのだ。例えば、ライオンに体を預けるスケーターの少年の彫刻。叫び声が聞こえるような躍動感がある一方で、時が止まったかのような静謐さも感じさせる。彼の傷痕はライオンによるものなのか、それとも彼を追い込んだ他の要因があるのか。鑑賞者は否応なく思いを巡らすことになる。実は、アートは独学。敬愛する作家の作品集に記された情報を元に必要な材料を買い込み、試行錯誤を繰り返してきた。最新作で挑んだエッグテンペラは、憧れるカラヴァッジョからの影響。唇ひとつ描くにも、60層の色を重ねたという。鋭いメッセージをほらみつつ、作品としての美しさは増していく。「次は大理石を使ってみよう」と語るときの笑顔は、やはり少年のようだった。

孤高の若きアーティストが、社会決定論へ疑問を投げかける。

世界8か国から『ポパイ』が注目する24組をラインナップ。あらためて、アートは自由で刺激的で、何より楽しいと実感。

090
このアーティストが
おもしろい。



©2016 THE KID. ALL RIGHTS RESERVED. COURTESY QUINCY ADAMS



©2013 THE KID. ALL RIGHTS RESERVED.

1. バリのアトリエにて、最新作を前にするザ・キッド。「ドローイングはパリ、彫刻は阿姆斯特ダムで制作するんだ」
2. 自然死した本物のライオンの毛を使用した渾身の彫刻。
3. 彼の代表的な手法である（BIC）のボールペン画。実在する殺人犯の兄弟を描いた。



ザ・キッド | 1991年、ブラジル生まれ。生後すぐにオランダへ。2012年からバリの「ALBギャラリー」に所属。今春、グラン・パレで開催した個展「I GO ALONE」では初の油絵とエッグテンペラの作品を発表した。